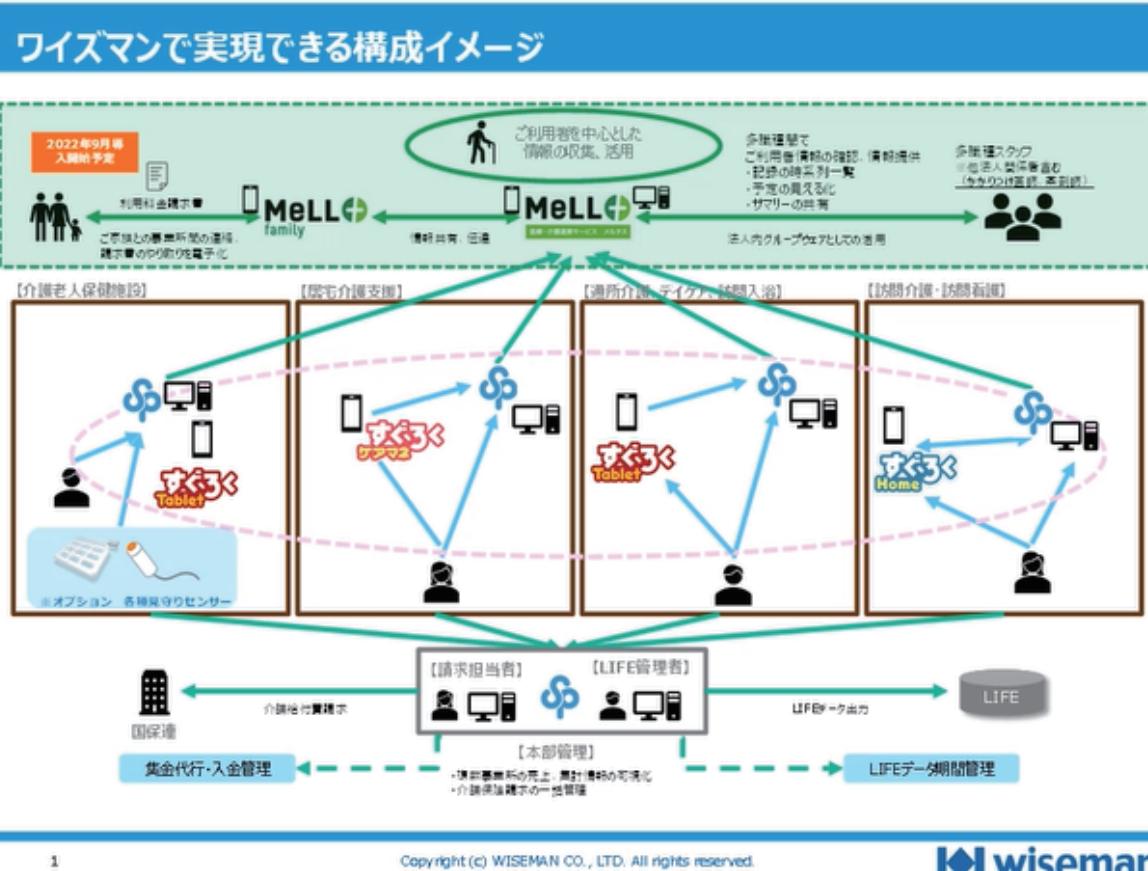


老健ふるさとのソフト・ICT 機器導入

- ご利用者の安全性の向上と職員の負担軽減の実績 -

介護ソフト ワイズマンの導入

介護事業に特化したパッケージシステムで、請求処理や集計資料の出力、タブレットを活用したケア記録など、業務全般を支援します。当法人のような医療・介護分野で多角的運営をする法人には、介護ソフトワイズマンと連携サービス「メルタス」が適切でした。



スタッフの声

介護ソフト・ワイズマン

デジタルが苦手でも安心！

介護ソフト自体がシンプルなので、苦手意識なく操作できます。また直感的に項目を選択できる仕様になっているので、これまでよりも記録がしやすく、スピードも早くなりました。

介護ソフト・ワイズマン

申し送りが短縮。密な情報共有！

これまででは多職種間で記録を転記しなければならなかったのですが、ワイズマンは記録から請求まで一気通貫で管理できます。必要な時に必要な情報を得ることができるので、申し送り時間が大幅に短縮し、情報共有の質が向上しました。

眠りスキャン（パラマウントベッド社）の導入

シート状のセンサーをマットレスの下に敷きこむことで、睡眠・覚醒・心拍数・呼吸数を把握することができるセンサーです。



スタッフの声



眠りスキャン

睡眠データをもとに分析！

センサーが寝返り、呼吸、心拍などを測定し、睡眠状態を把握します。データをもとにケアプランを見直したり、生活習慣の改善をするなど、サービスの質の向上に繋がっています。



眠りスキャン

安心して夜勤ができる！

常に見守りが出来ない場合も、呼吸状態等が確認できるので、変化があった際にすぐ訪室し、対応することができます。眠りスキャンを使用すると、どこにいても状態を確認できるので安心して夜勤できるようになりました。

無線ナースコール ココヘルパ[®]G（ジーコム社）の導入

スタッフは居室内の映像を見るため、居室へ駆けつける前に状況を判断し、より迅速で効率的に行動できます。また、離床センサにより起床時の転倒事故などのリスクがある場合には、検知する前の画像を録画できます。



スタッフの声



無線ナースコール

優先順位の判断が迅速に！

ナースコールが鳴った時、誰が対応しているかという情報まで共有できるようになりました。そのため、コールが重なった時も優先順位の判断がしやすく、対応効率が上がりました。

導入にあたって基本となる法人の全体方針

景翠会のDxプラットフォーム構想



- > ICT・大規模修繕の各補助金を活用し、ワイスマン社の介護記録ソフト及びパラマウントベット社の眠りSCAN（マットセンサー）・介護ベットの導入準備完了。
- > 2老健・在宅事業本部各事業所への統一ソフトを導入させ、手入力での作業を電子化することで業務負荷軽減を実現させる。
- > 統一ソフト導入により、各施設ご利用者様のID統合を行う。介護部門のID統合により、継続して景翠会全体のID統合を目指す。

厚生労働省のパンフレットにグループ施設・老健こもれびの取り組みが紹介されています！

厚生労働省の介護サービスの質の向上に向けた業務改善の手引きより

**介護サービス事業(医療系サービス分)における
生産性向上に関するガイドライン**

介護サービスの 質の向上に向けた 業務改善の手引き

厚生労働省 老健局

**タブレット端末を使い、紙を記述する手間から脱却し、
日々の利用者情報を電子化**

概要
高齢の介護老人保健施設であり、「高齢者さま中の会員かつ責任ある医療サービスの提供により、地域医療に貢献します」という理念をお持ちです。

実績
平成19年1月には自己資金で平成19年2月は東京地方裁判所の認定を受けました。令和元年3月には重慶の方々にCS認定のうれしき所長25名で、新規入所者は85名ほどである。

業務改善取り組みの内容・ポイント

概要
●タブレット端末による記録方法を導入、複数のタブレット端末を複数の介護職員が共有するなどして、業務改善を行いました。また、タブレット端末の導入によって、業務の効率化が図れました。

ステップ1
課題分析、問題解決の立案
●タブレット端末による記録方法を導入するにあたり、初期費用や初期導入料などの負担が大きくなることや、初期費用を回収するまでに時間がかかるなど、課題が浮上しました。

ステップ2
実証実験
●タブレット端末による記録方法の実証実験を行いました。実証実験では、タブレット端末による記録方法が、従来の手書きによる記録方法よりも、操作性が良くて、記録の正確性が高められたと評価されました。

ステップ3
実証実験結果の実用化
●タブレット端末による記録方法を導入して、タブレット端末による記録方法が、従来の手書きによる記録方法よりも、操作性が良くて、記録の正確性が高めたと評価されました。

事例説明の取り組み等について
まずは生産性・品質把握のため、管理者層・リーダー層へのヒアリング調査、職員へのタイムスケジュールアインメント調査を実施した。
その後、問題発見段階では、既存のシステムを用いたデータ分析を行い、既存システム内に多くの問題が抱かれていたため改修を行った。また、アーキテクチャ改修において、「組織名有・記録・連絡」の改修を行い改修を行ったところ、実際の介護老人保健施設「ふるさと」において、これまでで「顧客・ソーシャル・クラウド間に開けられた隙間」が解消され、「ふるさと」の運営が改善されることになった。

結果
平成19年1月には自己資金で平成19年2月は東京地方裁判所の認定を受けました。一方で、平成30年4月には施設の名称を「けいすいグループホームみるいろ」として改称が決まりました。これは、利用者の立場を考慮すると、多種多様な施設の活用度合い、それらの導入方法の変化に対応し、需要との連携が図れています。

記録を紙面で行っていた場合は、職員ごとにノフロがかかる状況では施設の運営層がかなり負担にならないといふ効率的で効率的な方法で、これを手書きするためにはやはりICT機器・ソフトウェア導入が必要となるなど、初期費用がかかるといった課題があります。但し、この度実証に実証したアプローチを利用すれば、既存のツールを活用することができるという点で、実証が成功したアプローチではタブレット端末の製品を販売して販売する、販売の実績との連携を最小限に抑えることも考慮した上で、独自ツールを開発することとした。

●業務改善の取り組み等について
まずは生産性・品質把握のため、管理者層・リーダー層へのヒアリング調査、職員へのタイムスケジュールアインメント調査を実施した。次に、初期費用や初期導入料などを明確にして、導入アシストツールを導入することで、初期費用を回収するまでの期間が短縮されるようになります。この点を目的としてツールの開発を行った。

●ハード面では、タブレット端末、モニタ・データ通信機器等の機器を導入するなどして、タブレット端末による記録方法を導入するための設備投資を行った。

●業務改善の取り組み等について
まず、タブレット端末による記録方法を導入するにあたり、初期費用や初期導入料などを明確にして、導入アシストツールを導入することで、初期費用を回収するまでの期間が短縮されるようになります。この点を目的としてツールの開発を行った。

●業務改善の取り組み等について
タブレット端末による記録方法を導入するにあたり、初期費用や初期導入料などを明確にして、導入アシストツールを導入することで、初期費用を回収するまでの期間が短縮されるようになります。この点を目的としてツールの開発を行った。